

予算特別委員会のもよう

予算案に対する各会派等の主な意見

賛成 自由民主党

令和3年度一般会計予算は、新型コロナウイルスの影響による税収等の動向を見極め、財政調整基金の更なる活用や事業の取捨選択を行いつつ予算執行することを求める。

新型コロナウイルス対策について、初の大規模なワクチン接種であるため、実行時に課題が判明した際には、柔軟かつ迅速な対処を求める。

大学のあるまちづくりについて、情報経営イノベーション専門職大学との各種連携を深め、開学する千葉大学とは、新型コロナウイルスワクチン接種等の協力を期待する。

学校教育について、急速に進んだICT化に学校現場が十分対応することを求めるとともに、改定する墨田区教育施策大綱の中で、今日的な教育課題を明確に位置付けることを求める。

賛成 公明党

区は予算特性として、後期基本計画との連動性等を掲げているが、まずはコロナ収束に全力を挙げ、当初予算についても機動的な見直しを行い、弾力的な補正予算の編成・執行を強く求める。

新型コロナウイルス接種は、経験したことがない規模であり、様々な困難等に直面すると思うが、通達行政の目詰りを打ち破り、区の判断でできることは積極的に展開していただきたい。

昨年の決算特別委員会で指摘した学校給食室へのエアコン設置については、契約や工事方法を創意工夫し夏までに完了させること。審議の中で明らかになった政策や課題について認識を共有し、前向きな答弁があったこと等を総合的に評価し、予算案には賛成する。

反対 日本共産党

PCR検査の拡充や学校給食調理室の空調機整備など評価できる施策もあるが、高すぎる介護保険料は横ばいで、国民健康保険料と後期高齢者医療保険料も引き下げられていない。

千葉大学には家賃助成などの他の施策とは整合性が取れない優遇措置を行い、また、ふるさと納税による収入は、北斎美術館の特定財源であるかのように扱っている。

財政調整基金の活用や不要不急の事業を見直し、新型コロナウイルスから区民の命と暮らし、営業を守ることを最優先にした予算を求める。

新型コロナウイルス対策について、区民の実態を把握し、命と暮らしを守るため、できることは何でもやるという構えで更に踏み込んだ支援を行うよう強く求める。

賛成 立憲民主党墨田区議団

令和3年度一般会計予算を前年度比で約54億円減額したが、これでは早期経済回復につながらない。民間支出低迷期は、公的支出を増加させる予算編成を要望する。

予算案には賛成するものの、自助に限界があり、政治の力を必要としている人の生活を守るため、これまでの要望・提案を真摯に受け止めることを強く要望する。

賛成 すみだの絆

新型コロナウイルスによって、区の掲げる人と人との「つながり」は長期にわたる自粛生活で失われつつあるため、予算執行に当たっては十分な目配り、気配り、心配りをしていたいただきたい。

民間感覚は必要だが、民間や地域に元気が失われつつある今だからこそ、区民に最も身近な行政の役割が大きく求められる。

賛成 立憲民主党

自粛生活が長期化する中、貸付・給付金等の案内や生活困窮者に対する自立支援、また様々な相談体制の強化によって区民生活が安定するよう努めていただきたい。

新型コロナウイルス収束後に予見される様々な変化を見据えてあらゆる手段を講じ、経済活動、区民生活への影響を最小限にするよう、迅速な対応を求める。

賛成 新しいすみだ

新しい学習指導要領により、英語教育は大きく変わるため、タブレットを使用した効果的な授業や、コロナの状況にもよるが、英語力が大きく向上する海外派遣事業を実現していただきたい。

区の高齢者住宅数は少なく、すみだすまい安心ネットワーク事業もあるが、区民ニーズにあった新しい住宅事業を作る必要がある。

主な質疑

千葉大学への追加経費について

千葉大学へ新たに追加補助する2500万円は、単に運営費の補助ということではなく、大学とともに研究していくという部分に当たるものと考えてよいのか。

単なる運営支援というものではなく、大学による一層の地域貢献を求める交渉を行う。区の喫緊の課題である新型コロナウイルス対策について、医学部からの協力や、キャンパスをワクチン接種会場として活用することなど、様々な要請をしている。

雨水利用の新たな取組の考えは

本区は雨水利用を推進し、先進都市として知られているが、区内で見かける設備は30年近く前から同じ形で残っているものである。バージョンアップした雨水利用を検討すれば、SDGsの取組につながると思うが、今後の取組の考えは。

集合住宅等の大規模な雨水タンクは雨水の利用状況について不明なところもある。雨水をどう有効利用していくか、千葉大学との共同研究の項目に入れられるよう検討したい。

駅ホームドアの設置について

JR錦糸町駅ホームドア整備助成費が計上されているが、この目的と内容は。また、繰り返し危険性が指摘されている押上駅のホームドア整備について、進捗状況はどのようになっているのか。

錦糸町駅については、本区の要綱に基づき、鉄道事業者がバリアフリー整備をする際に補助するものである。押上駅の状態については、京成電鉄から事前調査の段階と伺っているが、引き続き状況把握に努める。

防犯パトロールのニーズ調査をすべき

防犯パトロールについて、深夜帯の抑止力が弱いと感じており、住民のニーズに合わせ、特にパトロールしてもらいたい時間帯や地域等の調査をしてはどうか。

関係部署とどういった方法が適しているのか、また、今後に生かすためにはどういった設問にすべきか検討したい。

区北部と南部で施設数のバランスを考えるべき

都市型軽費老人ホームについて、区の南北で施設数に差があり、格差が出ておかしくない。バランスを考えて設置していくべき。

バランスに十分配慮しながら計画を立てているが、南部が極めて薄いため、区の基本計画中間改定の中で検討したい。

献血のPRについて

新型コロナウイルス感染拡大によって献血協力者が減っているが、ウェーブでの予約は取りづらい状況であるため、庁舎内の献血をPRしてはどうか。

献血の実施主体は都赤十字献血センターであるため、予約システムを改善できるか伝えていく。また庁舎内での献血についても、区報への掲載を継続するなどPRしていく。

幼稚園にも保育園にも通っていない子どもの実態把握と対策は

幼稚園にも保育園にも通っていない子どもの実態について、区ではどのように把握し、また何か対策を行っているのか。

全国一律で実施している調査によって所在を確認しており、家庭状況によって、必要な支援を行っている。

主な委員間討議

多子世帯への支援について

今年度予算に多胎児家庭支援が組み込まれたことを受け、多子世帯も同様の支援をすべきではないかとの意見に対して委員間討議が行われた。賛同の意見もあったが、多胎児は単胎児に比べてハイリスク出産であることや発育曲線についても3歳ごろまで遅れが出ることから、多胎児と多子は分けて考える必要がある等の意見があり、合意形成は図られなかった。

避難所における携帯電話等充電器の整備について

携帯電話等の充電器を避難所に整備すべきとの意見に対して委員間討議が行われた。避難所の収容人数に対し、どのくらいの割合で整備するのか等について論点整理が必要であるが、これに限らず備蓄品の見直しは行っていくべき等との意見が出され、今後も議論を行っていく旨、合意形成が図られた。

委員間討議について

これまで、委員会の審議では、委員が区長等に対して質疑を行うことが中心でしたが、これに加え、委員同士で討議を行い、議論を深め、合意形成等を図ること、より実りある審議を実現することとしていきます。

